

## ◆京都御所

### 「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、京都御所です。

京都御所 昭和 100 年パネル展示

京都御所は、明治維新まで天皇のお住まい（古くは内裏（だいら）という）であり、桓武天皇が奈良の平城京より長岡京（京都府）を経て、延暦 13 年（794 年）に平安京に都を移されたのが始まりとされています。

現在の京都御所の場所は土御門東洞院殿といわれた里内裏の一つで、元弘元年（1331 年）に光厳天皇がここで即位されて以降、明治 2 年（1869 年）に明治天皇が東京に移られるまでの約 500 年間、天皇のお住まいとして使用されました。

昭和天皇と京都御所の関わりとしては、昭和天皇の即位礼が行われたことが挙げられます。

即位礼は、新天皇が皇位を継承したことを広く公に宣言する重要な儀式で、昭和天皇の即位礼は、昭和 3 年（1928 年）11 月 10 日に京都御所の紫宸殿（ししんでん）で行われました。

今回の展示では、昭和天皇の即位礼に関する写真のパネル展示を京都御所参観者休所で行っており、これから京都御所を参観する方々に、この京都御所で昭和天皇の即位礼が行われたことを伝えています。



今回、京都御所を訪問したのが、令和 8 年春の特別公開（令和 8 年 3 月 25 日～3 月 29 日）期間中であったことから、見学コースに沿って特別に開放された参観経路を通り京都御所の中を見てきました。

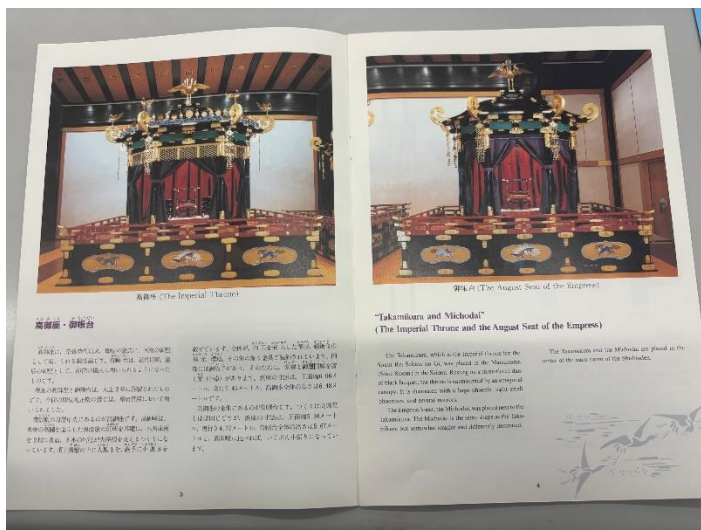
◆京都御所

特別公開期間中は、紫宸殿前の白砂の南庭（だんてい）に足を踏み入れることができ、昭和にとって重要な出来事であった昭和天皇の即位礼の舞台の間近まで近寄ることができました。



この紫宸殿の中には、即位の儀式に、天皇の御座として用いられる調度品である高御座（たかみくら）と同じく皇后の御座として用いられる御帳台（みちょうだい）が保管されており、特別公開期間中は、開放された紫宸殿の扉の間からその姿を伺うことができます。

現在の高御座と御帳台は、大正天皇即位に際して大正2年に製作されたもので、昭和・平成・令和の即位礼でも使用されましたが、平成・令和の即位礼は東京の皇居内にある宮殿で行われており、京都御所で即位礼が行われたのは昭和天皇が最後となっています。



## ◆京都御所

紫宸殿の屋根は、伝統的な工法である檜皮葺（ひわだぶき）であり、間もなく葺き替えの時期を迎えるとのこと。

古来からの伝統的な工法が、昭和・平成の間も受け継がれ、令和の時代にまた新しく屋根を飾ることになるかと思うと、こうした伝統的な工法を受け継いでいくことの大切さを実感したところです。



職員の方にもお話を伺いました。

この展示は、昭和100年という節目に当たり、京都御所の参観の冒頭において、昭和天皇の即位礼が京都御所紫宸殿において執り行われた歴史的意義を、当時の写真資料を通じて紹介するものです。これによって、京都御所が昭和の始まりを画した重要な舞台であったことを具体的に示し、京都御所を幕末史にとどまらない存在としてとらえ、皇室の伝統と近代日本の歴史が重なり合って築かれてきた空間として再認識していただくとともに、宮廷文化への理解を一層深めてほしい、とのことでした。

幕末史までの舞台と認識されがちな京都御所ですが、即位礼、という昭和との結節点を知ることで、昭和への関心が高まり、また、昭和から平成、そして令和の今日まで連続と紡がれてきた宮廷文化への理解も深まる、そのような契機になることを願っています。

京都御所 昭和100年関連展示の会期は12月25日まで。

会期：令和8年3月25日（水）～令和8年12月25日（金）

主催：宮内庁京都事務所

住所：京都府京都市上京区京都御苑（京都御所参観者休所）